

4.4 基山町に望ましい歴史民俗資料館の施設規模

図書館には、町の歩みと宝を公開する歴史民俗資料館が併設されています。図書館の候補地検討に際し、歴史民俗資料館についての検討も同時に深める必要があります。第2章にて述べたように、書物が持つ役割と同様に、歴史資料（考古資料・文書資料・民俗資料）は、時間を超えて人々の「考え」、「思い」、そして「経験」を知り、未来の生き方を考えるための重要な役割を担っています。これらの資料を収蔵し、過去の人々の経験を知る機会を与えてくれる場が、歴史民俗資料館といえます。

このように考えた時、図書館同様に歴史民俗資料館は、図書資料、物資料という区別はあっても、同意義の素材提供の場として、基山町の場合、併設されていることの意義は大きいといえます。

今後の図書館等施設の建設に際して、検討を行うための素材を以下に記し、(仮称)基山町図書館等建設基本計画策定に対する検討素材としていただきたい。



(1) 施設の規模

歴史民俗資料館の施設規模は、図書館のように人口比、財政比などを用いて算出することは容易ではありません。それは、地域が置かれた歴史的な背景、言い換えると、先人たちが築き残してきた文化遺産の数や、未来の人々へ引き渡したいという現代人の思いによって決まるからです。現在、基山町立歴史民俗資料館ならびに町教育委員会が所蔵する文化財、文化遺産の数量は、第3章にて記しています。

その中には、そのモノ自体に歴史性があり先人たちの生き様をしみ込ませたモノのほかに、特別史跡基肆城跡など、埋蔵文化財の発掘調査によって出土した遺物や調査の過程で取得された図面・写真などの記録類も含まれています。これら全てについて、必要に応じて多くの人々の目に触れることができるよう、収蔵管理しておくことが望まれます。

●資料の取り扱い

- ① どこに、どのような環境で保管されているのか。
- ② 閲覧希望に、即座に対応できるのか。

など、収蔵資料の保管のみならず利活用についても、現在、文化庁からの指導が加えられています。これは、税金を投じた調査の成果を、国民へ還元する義務を問うものであり、「どこに」「どのような状態で」保管されているのかということが問われるようになってきました。

●資料公開

「公開しなければ、存在は認められない。」

知らされなければ、町民である私たちは、その存在を知ることもできません。

基山町内には、江戸時代に描かれた土地争いを証明する極めて貴重な資料も眠っています。また、特別史跡基肆城跡から出土した、日本の古代国家形成過程を物語る貴重な資料も出土しています。このような基山に生きた人々の生き様を証明するモノを、収蔵管理し公開していくことが望まれます。第3章にて記しましたように、町所蔵資料の一部は、露天にて保管されているものもあります。町の宝が、このような状況でいいのでしょうか。

●施設規模

先にも記しましたが、町の人口規模で収蔵資料の数が決められるものではありません。しかし、一方で施設の建設を行うにあたって、施設規模の算定することも必要です。現在収蔵されている資料数や、町が所有している収蔵施設の規模から、資料を収蔵する施設規模の一定の見通しは立てておく必要があります。

また、資料を公開する展示室ならびに資料整理室が歴史民俗資料館には併設されます。現在の展示室面積は、219㎡の規模を有しています。しかし職員が配置されない中、これだけの面積の展示を行うことには無理があります。

そこで展示面積については、その運営も含めて規模縮小も考慮に入れた検討が必要です。ここでは、多くの面積を必要とする収蔵庫の面積について見通しを示しておきます。

【現在の収蔵施設規模】

○若基小学校地内の収蔵施設	129.6㎡（4間×10間のプレハブ）
○旧役場収蔵施設	116.6㎡（6間×6間鉄筋コンクリート造）
○現歴史民俗資料館2階収蔵庫	6.48㎡（1間×2間）
○現図書館野外収蔵	8.82㎡（コンテナ収蔵2.94㎡×3ヶ所）
合計	261.5㎡（≒260㎡）

現在、特別史跡基肆城跡では、平成の大修理が行われています。2年後には基肆城築城1350年を迎えようとしています。国の宝である基肆城跡からは、この平成の大修理に伴い、多くの出土遺物と取得される写真・図面類が生み出されています。このことを考え合わせると、将来増加する資料数も考慮に入れておく必要があります。

また、閲覧に供することを考えると、隙間なく資料を収蔵することは、引出しにくいという欠点も生まれます。これらのことを考慮し収蔵施設の規模や収蔵棚などを設計していく必要があります。



展示ケース内のカビ

併せて、保管環境に十分に配慮しなければならない資料も存在します。

図書資料も実は紙でつくられていますので、虫害を考慮すべき資料です。また遺跡から出土する木製の遺物や金属製の遺物は、常温常湿の環境下では、錆や乾燥によって劣化していきます。

このような脆弱な資料に対処した収蔵施設を付帯して設けることも必要となります。

以上のことを考慮し、基山町に望ましい歴史民俗資料館の収蔵庫の面積は、現収蔵面積の1.5倍程度が望ましいと考えられます。しかし、これはあくまでも試算の段階であり、(仮称)基山町図書館等建設基本計画策定の段階で、十分な検討が行われる必要があります。

基山町に望ましい歴史民俗資料館の収蔵庫面積
現在の収蔵資料占有面積 260 m²の 1.5 倍程度が望ましい

(2) 施設の運営

【資料収蔵の理念】

収蔵施設が整備されると、多くの町民から資料寄贈の申し出が出てくるものと想像されます。しかし際限なく受け入れることは、限られた収蔵空間から無理が生じます。そこで、資料収蔵の理念が必要となってきます。

歴史民俗資料館の持つ限られた収蔵空間を活かすための理念を記しておきます。

① 公開できる管理を行う

歴史民俗資料館で収蔵する資料は、言い換えると行政が保管する行政資料です。いつでも、だれでも見ることができるよう管理しておく必要があります。

② 資料は可能な限り受け入れない

資料は、引き継いできた所有者の元で保管してもらおう。それは、引き継いできた方々の何代にも渡る積層する物語とともに資料は存在しているからです。引き継いできた所有者が語る物語は、第三者である学芸員には語るができない累積した時代の重みを持っています。可能な限り、所有者によって次世代へ引き継いでもらうことが、今から求められる資料保管の方法です。しかし、次世代へ引き継ぐ先が見つからない場合は、多くの関係者で議論し支える仕組みも必要だと考えます。

【運営方法】

現在、基山町立歴史民俗資料館では、常設展ということで町の歴史が分かることを意図した展示が行われています。また、平成19年度から町内の民間団体との共催によって基山町史編さん事業成果展が開催されています。

限られた町の職員での運営には限界があります。新しい歴史民俗資料館は、歴史資料を公開することはもちろんのこと、図書館との併設を最大の利点として、書物の作品展をはじめとした基山の文化展が開催できるような仕組みづくりも必要だと考えられます。

そのためにも、多くの町民が集う場としての展示室の役割の見直しや、町民からの支援による協働事業を行う体制づくりも必要となってきます。

- 多くの町民が活用できる展示室
- 町民から支えられる体制づくり

4.5 現在の図書館等施設に対する建替えの検討

現在の老朽化し、狭い図書館に対して、「図書館の基本方針」及び「基山町マスタープラン(総合計画)」に整合した文化施設とし望ましい図書館(図書館の空間施設・サービス)を考えた場合、現在の図書館をどのようにするのか選択する必要があります。

その場合、選択肢としては下記の三つが考えられます。

選択区分

- ① 現状維持・・・現況の施設をそのまま維持する。
- ② 改築増築・・・現況施設を増築・改築して施設を大きくする。
- ③ 新しく建設・・・将来の基山町に望ましい図書館として新たな候補地に建設する。

・現在の図書館の延床面積	=	392m ²
・現在の図書館の用地面積	=	1,949m ²

望ましい図書館としては、下記の面積(広さ)を想定します。

- | |
|--|
| ・図書館延床面積=1,000 m ² |
| ・館外ひろば=500 m ² (駐車場 20 台、駐輪場、周辺緑地など) |
| ・用地面積=1,000+500 m ² =1,500 m ² |

基山町に望ましい図書館等施設の規模を基準とした場合、それぞれ上記の選択区分「①・②・③」の問題点を整理すると下記のとおりです。

選択区分「①・②・③」の問題点の整理

項目	①現状維持	②改築増築	③新しく建設
用地面積	河川改修により現在の用地面積が1,949㎡から約1,390㎡に狭くなる。	左同	新たな用地面積を確保。
河川改修	河川改修で河川側用地が約10m狭くなる。 現在の建物の河川側約8mが取り壊し部分となる。	左同 河川改修により増改築することは、困難である。	影響がない場所を確保。
延床面積	必要な面積に対して不足している。	左同	新たに必要な面積を確保。
図書館内の設備	開架空間が狭い	左同	十分な書架空間を確保。
①書棚面積	大幅に不足	増築すると駐車場が不足	新しい施設で確保
②生涯学習空間	十分に確保できていない	新たな増設が必要(用地の確保が必要)	新しい施設で確保
③交流の場	確保できていない(場所がなし)	新たな増設が必要(用地の確保が必要)	新しい施設で確保
評価	望ましい図書館としては対応が困難	望ましい図書館としては対応が困難	望ましい図書館として選択

上記の比較検討から、河川改修による用地が減少(次項の図を参照)するので、基山町の望ましい図書館としては、「③新しく建設」を選択することが望ましいと考えます。

**基山町の新しい図書館の建設場所としては、
新たな候補地を選択することが望ましい**

【実松川の河川改修により現在の図書館用地が減少】

